氏名 前川 慶之

所属 岩手県立磐井病院

役職 災害医療科長

これまでのキャリア

卒後十年余り心臓血管外科に従事し、周術期医療関連感染の研究で学位を取得しました。

この間に東日本大震災が発生。多々思うことがあり、大学を離れ岩手に里帰りしました。

私のもとではこれが学べる

救急科の対象疾患は、感染症（肺炎、尿路感染など）、外傷、中毒、環境障害（熱中症、低体温）、老衰、心肺停止と多岐にわたります。まず、１年次研修医には広くプライマリケアを経験してもらいます。さらに、 2 年次研修医には敗血症、ショック、臓器不全、多発外傷などの重症例を通じて、より高度な全身管理、集中治療を修得してもらいます。

ほか、診療科として多数の COVID-19 重症例を経験しており、研修医にも感染症診療、感染制御について知識と技術を深めてもらいます。

手技は、救急科専門医のテキストである救急診療指針改訂第５版（へるす出版）に記載のあるものを中心に指導します。これは EPOC２の『基本的臨床手技』を包含する内容です。

教育にかける思い

教育について、禅僧である枡野俊明さんは以下のように述べています。

『「啐啄同時（そつたくどうじ）」という言葉があります。

雛が卵から孵ろうとするとき、なかから合図のように殻を吸ったりつついたりします。この状態が「啐」です。一方で親のほうはその合図を聞きながら、外側から殻をつついてやる。これが「啄」です。

これはとてもデリケートな作業で、雛の体ができ上がっていないうちに親が殻を割ってしまうと、雛は死んでしまう。雛が殻をつつく音をしっかりと聞きながら、よしもう大丈夫だと思ったところで、丁寧に外側から殻を割ってあげる。

つまり「啐啄同時」とは、両者にとって絶好のタイミングのことを言うのです。

これは、子育てはもちろん、上司と部下といった師弟関係にも通じることです。相手を育て上げるときは、急ぎすぎてもいけないし、のんびりしすぎてもいけない。育ててもらうほうは、それなりの合図を相手に送る必要がある。』

（枡野俊明　「禅　シンプル生活のすすめ」知的生きかた文庫）

医学教育にも同様のことが言えます。成長したいと切に願う研修医・学生とそれを支援する指

導医が揃ってタイミングがあってこそ、質の高い教育が成立します。
　一方通行ではない教育、”共”育が理想的だと考えています。

医学生へのメッセージ

　「覚悟はいいか？　オレはできてる（ブローノ・ブチャラティ）」

　見学を希望する学生は、ジョジョの奇妙な冒険（荒木飛呂彦、集英社）を全巻読破してから申し込みすること。